

さいたま市長定例記者会見

令和7年1月31日（金曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行        それでは、定刻になりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。

                  それでは、記者クラブ幹事社、毎日新聞社さん、進行をよろしくお願ひします。

○ 毎日新聞        1月の幹事社の毎日新聞と申します。よろしくお願ひいたします。

                  それでは、まず本日の記者会見の内容について、市長のほうからご説明いただけますでしょうか。

○ 市 長        皆さん、こんにちは。

                  1月28日、八潮市で道路陥没事故が発生しました。本市の消防も応援に入っていますが、現地では今も懸命な救助活動が行われているところで、事故に巻き込まれた方が、一刻も早く救出されることを心より祈っています。

                  また、この事故の影響により、岩槻区と緑区の一部地域で下水道の使用制限と節水のお願ひしています。洗濯機の使用回数を減らしたり、入浴の際にシャワーを出しっ放しにしないなど、可能な範囲での節水をお願ひします。なお、トイレについては、健康に関わりますので、通常どおりご利用していただいで構いません。

                  該当する地域の皆様には、ご不便をおかけしますが、ご協力をお願ひします。

                  それでは、議題に入ります。

### 市長発表：議題1「令和7年さいたま市議会2月定例会提出議案について」

                  それでは、議題1「令和7年さいたま市議会2月定例会提出議案について」説明します。

                  令和7年さいたま市議会2月定例会を2月4日に開会します。議案数は合計で85件です。内訳としては、予算議案が33件、条例議案が31件、

一般議案が10件、道路議案が2件、人事議案が9件です。

令和7年度当初予算案の特徴についてご説明します。キャッチフレーズは、「誰もが希望（ゆめ）みる（ある）未来へ、さいたま市の更なるシンカに取り組む予算」と名づけました。

誕生以来、人口増加を続け135万人を突破した本市が、誰もが未来に希望（ゆめ）を描けるよう、21世紀半ばを見据えたさいたま市の新時代に向けて、さらなるシンカに取り組む予算として編成しました。

予算編成に当たっては、新時代を切り拓くさいたま市らしさの深化、誰一人取り残さない持続可能な地域社会の実現、激甚化する自然災害への対策強化、DX推進と公民学共創による質の高い市役所の創造の4つを予算の柱としました。

次に、予算規模についてご説明します。まず、一般会計ですが7,034億円、前年度比で86億円、率にして1.2%の減です。一般会計に特別会計と企業会計を加えた全会計では1兆1,663億円、前年度比153億円、率にして1.3%の減となっているものの、過去最大級、令和6年度に次ぐ2番目の予算規模です。

続いて、一般会計の主な特徴についてご説明します。歳入は、定額減税の終了等による個人市民税の増、地方特例交付金の減、また児童手当給付事業費の増等に伴う国庫、県支出金の増。歳出については、児童手当給付事業、障害者自立支援給付等事業等の扶助費の増、サーマルエネルギーセンター建設工事等の普通建設事業費の減となっています。

また、国の補正予算に伴う物価高対策としての住民税非課税世帯等に対する給付金の支給や防災・減災、国土強靱化の推進などについて、迅速かつ切れ目なく実施するために、令和6年度補正予算を含めた16か月予算として編成したところです。

次に、4つの柱について順次ご説明します。まず、1つ目の柱は、「新時代を切り拓くさいたま市らしさの深化」です。本市が選ばれる都市であり続けるため、21世紀半ばを見据えたさいたま市の新時代に向けて、本市の持つ魅力の深化に取り組みます。

各事業の予算総額は361億8,350万5,000円です。

主にさいたま新都心や浦和駅、大宮駅周辺のまちづくりを推進するほか、

地下鉄7号線の延伸やスポーツ施設、義務教育学校の整備、ゼロカーボンシティ実現に向けた施策などにも取り組んでまいります。ほかにも、市民アプリ、デジタル地域通貨による市民生活等の支援、大宮盆栽村100周年記念事業の実施、都市公園の整備などにも取り組んでまいります。

続いて、2つ目の柱は、「誰一人取り残さない持続可能な地域社会の実現」です。社会経済状況が大きく変化し続ける中、誰一人取り残さないというSDGsの理念を基に、誰もが住みやすく持続可能な地域社会の実現に向けた取組を推進してまいります。

各事業の予算総額は547億372万1,000円です。

主に子育て世帯への負担軽減事業の実施などの子育て施策の拡充を行っていくほか、高齢者等の移動支援の充実や障害者への日常生活用具等の給付など高齢者、障害者施策の充実などに取り組んでまいります。ほかにも包括的な支援体制の構築やコミュニティソーシャルワーカーの配置など、生活困窮者や生活課題を抱えた人たちを支援してまいります。

続いて、3つ目の柱は、「激甚化する自然災害への対策の強化」です。激甚化、頻発化する地震や豪雨等から市民を守るために、橋梁の耐震補強や落橋防止対策の実施、また治水安全度の向上を図るとともに、地域の防災力の向上や消防力の強化に取り組んでまいります。

また、災害に強い道路ネットワークを構築するために、幹線道路の整備を推進します。

各事業の予算総額は、433億6,674万6,000円です。

主に災害対策や橋梁の耐震化、インフラ整備に取り組むほか、消防力の強化に取り組んでまいります。

続いて、4つ目の柱は、「DX推進と公民学共創による質の高い市役所の創造」です。さいたまデジタル八策に基づき、全庁横断的にDXを推進し、一層の市民サービスの向上と業務効率化に取り組んでまいります。

また、多様化・複雑化する行政課題に柔軟に対応するため、公と民の連携を推進し、行政コストの削減と質の高い公共サービスの提供を目指します。

各事業の予算総額は、137億9,496万6,000円です。

主に書かない窓口の全区展開やデータの利活用などのDX推進施策に取

り組むほか、公民連携による公園整備やJCHOさいたま北部医療センター跡地利活用など、公民学共創による質の高い市役所を目指します。

続いて、4本の柱における主な事業について説明します。まず、1つ目の柱、「新時代を切り拓くさいたま市らしさの深化」では、新庁舎の整備及び新庁舎整備を見据えたさいたま新都心まちづくりの検討、浦和駅西口南高砂地区市街地再開発の推進、大宮駅グランドセントラルステーション化構想、大宮駅東口再開発等の推進、地下鉄7号線の延伸と浦和美園・岩槻地域間のまちづくりの推進等です。

また、中央区役所周辺の公共施設の再編及び（仮称）次世代型スポーツ施設の整備、武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の整備、（仮称）武蔵浦和地区新設スポーツ施設、南部エリアレジャープールの整備、ゼロカーボンシティ実現に向けた地域循環共生圏の構築、デジタル地域通貨、市民アプリを活用した市民生活の支援、利便性向上、大宮盆栽村100周年記念事業等の実施、都市公園のシンカの推進に取り組んでまいります。

こうした事業を推進することで、さいたま市らしさの深化を図ってまいります。

次に、2つ目の柱です。「誰一人取り残さない持続可能な地域社会の実現」の主な事業をご紹介します。子育て世帯への負担軽減事業の実施と子育て支援医療費の助成、新生児マススクリーニング検査の拡大及び1か月児健康診査の実施、学校の給食用食材の物価高に対する支援、保育人材の確保対策。また、小中学校のトイレ洋式化の前倒し実施、健康福祉センター東楽園の開館、高齢者等の移動支援事業の拡大、移動手段確保実証実験、帯状疱疹ワクチン接種事業の実施。さらに、障害者や障害児への日常生活用具等の給付、包括的な支援体制の構築と地域居住支援の推進、コミュニティソーシャルワーカーの配置、わがまちカメラ戦略的整備・活用事業に取り組んでまいります。

こうした事業を推進することで、誰一人取り残さない持続可能な地域社会の実現を目指してまいります。

次に、3つ目の柱です。「激甚化する自然災害への対策強化」の主な事業を紹介します。まず、さいたま市総合防災訓練（九都県市合同防災訓練）の実施、緊急輸送道路等の橋梁耐震化の推進、交通安全施設の整備促進、

治水安全度向上のための準用河川整備及び排水路等整備の推進。また、水防センター整備の推進、小中学校への空調設備全校設置に向けた整備、さいたま市消防力整備計画に基づく消防力等の体制強化、消防団員の処遇改善等による消防団の充実強化に取り組んでまいります。

こうした事業を推進していくことで、自然災害への対策強化を図ってまいります。

続いて、4つ目の柱です。「DX推進と公民学共創による質の高い市役所の創造」の主な事業を紹介します。まず、書かない窓口の全区展開、スポーツを科学する生徒の育成、若者のライフデザイン形成の支援、消防団支援アプリの導入による消防団の充実強化。また、Park-PFIを活用した公園整備、JCHOさいたま北部医療センター跡地利活用の推進、アーバンスポーツの活性化、公立保育所機能向上、再編の推進に取り組んでまいります。

こうした事業を推進することで、質の高い市役所の創造を目指してまいります。

次に、令和7年度に特に重点的に取り組むべき施策として、総合的な社会保障関連施策の推進、子ども・子育て関連施策の充実、脱炭素先行地域づくり事業、DXの推進に資する取組についてご説明します。

まず、総合的な社会保障関連施策の推進についてです。地域共生社会の実現を目指し、様々な課題を抱える市民を受け止め、その人の状況に合わせた社会保障関連施策に着実につなげていくことで、市民の安心や生活の安定を支える事業を展開します。

令和7年度当初予算額は、684億円、16か月予算としては、2,726億6,000万円を計上しています。

主な事業としては、制度のはざまにある生活課題を抱えた人たちを支援するために、コミュニティソーシャルワーカーの配置や認知症の方の意思を尊重し、住み慣れた地域の生活を継続できるよう認知症フレンドリーまちづくりセンターの運営等、また予防と共生のまちづくりを推進するとともに、ケアラー・ヤングケアラー啓発事業、(仮称)さいたま市口腔保健センターの開設準備といったソフト、ハード両面の事業を展開しながら様々な課題を抱える市民を受け止め、その人の状況に合わせた社会保障関連施

策を着実に進めていくことで、市民の安心や生活の安定を支えてまいります。

続いて、子ども・子育て関連施策の充実についてご説明します。こどもまんなか社会や子育て楽しいさいたま市の実現を目指して、各ライフステージに合わせた切れ目ない支援を充実することで、子どもたちが自分らしく輝いて成長し、安心して子育てができる環境づくりを推進します。

令和7年度当初予算額は1,720億9,000万円です。16か月予算としては、1,752億2,000万円を計上しています。

主な事業としては、子育て世帯への負担軽減事業の実施と子育て支援医療費の助成など、妊娠、出産、育児の経済的支援を含めた手厚いサポートの充実を図るとともに、待機児童の解消、育成支援の環境改善のため、放課後児童クラブの拡充と放課後子ども居場所事業やヤングケアラーのサポートに取り組み、各ライフステージに合わせた切れ目ない支援を充実させていくことで、安心して子育てができる環境づくりを強化します。

続いて、ゼロカーボンシティの実現に向けた取組についてご説明します。2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ、ゼロカーボンシティを目指すことを表明し、2030年度までに温室効果ガス51%の削減を目指します。令和3年にさいたま市気候非常事態宣言を発出しました。「みんなでアクション ともに未来へ」を合言葉に、令和4年度に選定された脱炭素先行地域事業など国の交付金を活用して、目標達成に向けて市民、事業者、行政が一体となって取組を加速させます。

令和7年度当初予算額は、229億2,000万円です。

主な事業としては、西区役所の中規模修繕工事と合わせて、建物のエネルギー消費量の削減を実現するZEB Readyの達成を目指すほか、市有施設における再生可能エネルギー設備等の導入の推進、ペロブスカイト太陽電池の実証、支援、実装化、温室効果ガス排出量を削減させるため、次世代自動車の支援策を市民、事業者に実施するなど、ゼロカーボンシティに向けて、市民、事業者、行政が一体となって取組を進めます。

最後に、DXの推進に資する取組についてご説明します。行政サービスを利用する市民負担の軽減、地域社会全体のデジタル化の推進など、目指すべき姿の実現に向けて、DX推進に関する施策を目的別に8つに分類し

たDXコンセプト「さいたまデジタル八策」を掲げて、市民サービスの向上と業務効率化を目指し、戦略的にDXを推進します。

令和7年度当初予算額は95億円です。16か月予算としては、107億4,000万円を計上しています。

主な事業としては、書かない窓口システムの全区導入によって、市民の利便性向上と業務効率化に取り組んでまいります。また、デジタル地域通貨、市民アプリを活用し、市民生活の支援や利便性の向上に取り組むほか、データ施策の評価や検証等に活用するさいたまシティスタットの推進、回遊性向上を図るため、岩槻駅にデジタルサイネージを設置するなど、市民生活の利便性向上だけでなく、地域経済の活性化、また行政サービスの向上などにつながるものと期待しています。

令和7年度当初予算案の説明は以上です。

最後に、主な条例議案についてご説明します。「さいたま市立学校設置条例等の一部を改正する条例」を制定します。

年々増加傾向にあります本市の不登校児童生徒への多様な教育機会を確保することを目的として、新たにさいたま市立いろどり学園小学部及び中学部を設置するため、所要の改正を行うものです。

施行期日は令和8年4月1日等です。

不登校等児童生徒一人一人に応じた多様な支援を保障し、児童生徒が学力やコミュニケーション能力を身につけることで、社会的に自立できるように支援したいと考えています。

## 市長発表：議題2「誰もがスポーツを楽しみ、誰もが参加できる大会さいたまマラソン2025」

続いて、議題2「誰もがスポーツを楽しみ、誰もが参加できる大会さいたまマラソン2025」についてご説明します。

3月16日の日曜日にさいたまマラソン2025をさいたまスーパーアリーナをスタート・フィニッシュとして開催します。また、関連イベントとして、さいたまマラソンフェスティバル2025を同日に開催します。ランナー以外の方にもぜひ楽しんでいただければと思っています。

初めに、さいたまマラソン2025の種目と出走予定人数です。マラソ

ンの部は、午前9時にマラソンの部と8キロの部のランナー約1万7,000人がスタートし、さいたま市内を走ることとなります。

おかげさまで、エントリー締切り1か月前にマラソンの部の申込みが定員に到達して、また、8キロの部、車いすの部、親子ランの部はエントリー開始1、2か月ほどで定員に達したところです。今大会も多くの方にエントリーしていただき大変うれしく思っています。

大会当日は、全種目合わせて約1万9,000人のランナーが出走する予定です。

次に、大会当日の交通規制についてです。さいたまマラソンの開催に伴い、市内広域で交通規制を行います。コース周辺の道路の混雑、路線バスの一部変更や運休など、市民の皆様には大変ご不便をおかけすることになりますが、ご理解とご協力をお願いします。

規制される道路や迂回ルートなど、詳しい内容は大会公式ウェブサイトや市報1月号で配布している交通規制のお知らせをご確認ください。また、エリアごとの交通規制時間や歩行者がコースを横断できる箇所も掲載していますので、併せて確認していただきたいと思っています。

ここからは、参加するランナーを応援する取組についてご紹介します。大会アンバサダーは、現在も現役選手として活躍している新谷仁美選手が務めます。前大会マラソンの部女子総合4位、さいたま市在住で、美しく走る方法を発信しているビューティーアドバイザーランナーのまかランさん、また長年さいたま市のランニングイベントを盛り上げてくれるNACK5のパーソナリティの柴田さんと福島さん、マラソンの部では、クイーンズ駅伝において3位になった地元企業しまむらの女子陸上競技部菊地選手、ランニングクリニックの講師を務めてくれた白方さん、浦和レッズハートフルクラブの酒井さん、合計6名の方がゲストランナーとして参加します。

続いて、8キロの部は、しまむら女子陸上競技部の鈴木選手、中馬選手、山田選手がゲストとして出走します。車いすの部は、アテネパラリンピックの金メダリストで現役車いす陸上選手の安岡選手、最後に大会公式サポーターは前大会から引き続きウルトラランナーのみゃこさんが務めます。

各種目で、多くのゲストランナーが大会を盛り上げ、参加ランナーと一

緒に走ってくれることでランナーのモチベーションを上げてくれるものと考えています。

次に、ペースランナーについてですが、今大会では3時間から5時間30分まで30分ごとにペースランナーを用意しています。また、ランナーサポートの新たな取組として、先ほどご紹介した大会公式サポーターのみゃこさんが「みゃこん部完走させ隊」を結成しました。マラソンの部の最後尾を走りながらランナーを応援してくれます。みゃこさん率いる8人のメンバーがランナーの皆さんの完走を全力でサポートしてくれます。

次に、給食の提供です。さいたま市や埼玉県にゆかりのある企業の食物をコース沿道でランナーに提供します。今大会もコース沿道に店舗を構える「かのうや」のウナギの蒲焼きをご用意しています。また、来年度、東日本連携の取組が始まって10周年を迎える連携都市も30都市となりました。そのような連携の中で各都市の特産品を給食として提供します。

さらに、37.5キロメートル地点では特別給食として、埼玉県で生まれたイチゴ「あまりん」と「かおりん」を提供します。市内の障害者支援施設邑元会しびらきで栽培されたものを無料でご提供いただけることになりました。こちらは、数量限定、時間限定で提供するため、食べることができるかはタイミング次第となります。大会の一つの楽しみにしていただければと思います。コースで提供するおいしい給食を食べて、ランナーの方には最後まで頑張っていたいただきたいと思います。

また、コース沿道では、今大会もランナー応援隊がパフォーマンスを実施します。今年は、市内10区や越谷市の団体がランナーの完走や自己ベストの更新を後押しするために、太鼓やダンス、吹奏楽などのパフォーマンスでランナーを応援してくれます。実際私も前大会ランナーとして参加した際に、沿道からの応援に元気もらいました。様々なパフォーマンスを見ることができるので、ランナーだけでなく沿道での観戦者も楽しむことができます。各団体の詳細は、大会公式ウェブサイトをご覧ください。また、市民の皆様も沿道に出て、ゴールを目指すランナーの方々をぜひ応援してください。

次に、ボランティアについてです。今大会から、ボランティアをサポートする「ボランティアリーダー」とご家族で参加できる「ファミリー枠」

を新たに設けました。また、年齢条件を緩和することで、15歳以下のグループの参加を可能にしました。小学生から中学生も参加できるようになりました。このような新たな取組により、ボランティアリーダーは64名、ファミリー枠は303名、一般の方、企業、団体などから合計4,600人以上の方にボランティアとして参加していただけることになっています。前大会より多くの方にご参加いただき、心から御礼申し上げます。大会当日、参加するランナーを温かいおもてなしの心でサポートできるよう準備を進めてまいります。

さいたまマラソンの同日開催イベントとして、「さいたまマラソンフェスティバル2025」をさいたまスーパーアリーナのコミュニティアリーナで開催します。こちらは、入場無料です。参加ランナーや関係者ではなくても誰でも参加できるイベントとなっています。

フェスティバルは、3つのエリアに分かれています。まず、「コミュニティパーク」では、さいたま市みんなのアプリや東日本連携都市などのブースを出展し、出展者と参加者が交流及び関係づくりを行うことができます。

次に、「アクティブパーク」では、キックターゲットやフットゴルフなどのスポーツ体験だけでなく、ボッチャや車いすバスケットボールといったパラリンピックで採用されているスポーツも体験することができます。

最後に、フードパークでは、さいたま市に店舗を構える飲食店をはじめ、タコライスやローストポーク丼など様々な食事が楽しめます。また、支払いにはさいたま市みんなのアプリで提供している決済手段、「さいコイン」、「たまポン」の利用ができます。ランナーの方は走り終えた後、おいしい食事をぜひ召し上がっていただきたいと思います。

さらに、ステージイベントとしてジェイコム制作番組「埼玉の逆襲」がさいたまマラソンのステージを盛り上げてくれます。フェスティバルの会場は、メインアリーナへもつながっているため、ランナーのフィニッシュシーンを観覧できるようになっています。さいたまマラソンフェスティバル2025の情報は、今後大会公式ウェブサイトやSNSで発信していきますので、ぜひご覧ください。ランナーだけではなく、誰でも参加できるさいたまマラソンフェスティバル2025に皆様のご来場をお待ちしています。

大会当日は、ランナーが約1万9,000人、ボランティアが約4,600人、ランナー応援隊が約130人、沿道観戦者が昨年約9万人、合計11万人と多くの方が携わって開催することになります。参加するランナーの方々はもちろん、大会を支えるボランティア、沿道などで応援する方々など、様々な立場でさいたまマラソンに関わる皆さんが満足いただける大会となるよう開催していきたいと思っています。

### 市長発表：議題3「最大33%！「さいたま市みんなのアプリ」を活用したポイント還元キャンペーンが始まります」

次に、議題3「最大33%！「さいたま市みんなのアプリ」を活用したポイント還元キャンペーンが始まります」についてご説明します。

皆様から大変多くの期待をいただいているさいたま市みんなのアプリで、さいたま市史上最大のポイント還元キャンペーンが始まります。このキャンペーンは、さいコインの決済額に応じた30%相当のたまポンを還元するものです。現在、株式会社つなぐが実施中のさいコインチャージ時に、最大3%のたまポンがもらえるキャンペーンも加えると、最大33%のポイントが還元されます。期間限定のさいたま市史上最大の超お得なキャンペーンですので、皆様お忘れなくご利用いただきたいと思います。

続いて、キャンペーンの概要についてご説明します。本キャンペーンは、市民の皆様の消費を下支えすることを目的に、さいたま市みんなのアプリで提供するさいたま市内の加盟店で利用できる電子マネー「さいコイン」と、1ポイント1円相当で利用可能なさいコインのチャージなどでももらえるポイント「たまポン」を活用するものです。還元対象期間は、2月7日から4月24日までです。予算上限に達し次第終了となりますので、ご留意いただきたいと思います。還元率は、決済額の30%で、株式会社つなぐで実施中のキャンペーンと合わせて、最大33%のポイントを還元します。還元の上限は、1人当たり3万円相当で決済1回当たりの還元上限の設定はなしです。還元額は、総額10億円です。

続いて、ポイント還元の流れについてご説明します。還元方法は、さいコインでの決済額の30%分をたまポンとして還元します。本キャンペー

ンで還元したたまポンの期限は、5月末で失効します。通常のだまポンの有効期限とは異なりますので、期限内にお忘れなくご利用いただきたいと思います。還元されたたまポンは通常のだまボンと同様、一部の加盟店を除く全ての店舗で利用することができます。還元反映の時期は、1週間の決済分を翌週水曜日にまとめて付与することになります。なお、ポイント還元予定日は、アプリ内から確認することができます。

続いて、キャンペーン参加の流れについてご説明します。まずは、アプリをダウンロードしていただいて、使えるお店をチェックしていただきます。次に、マイナンバーカード認証、さいコインのチャージなど、必要な作業を完了した後に、加盟店全店で利用できるさいコインでお買物をしていただきたいと思います。日常生活に必要な買物をするもよし、飲食店で使うもよし、新生活に向けた洋服やかばん、家電などを購入するもよし、好きな加盟店でお買物していただきたいと思います。

なお、還元上限が1人当たり3万円相当のために、還元対象額が10万円ということにご留意いただきたい。翌週水曜日には、決済額に応じたたまボンが還元されます。還元されたたまポンは、地元の商店街などにご利用いただき、皆さんの地元のお店をぜひ盛り上げていただきたいと思います。

キャンペーン開始まで、いよいよあと1週間となりました。アプリのダウンロードやマイナンバーカード認証など、キャンペーン参加に必要な作業がまだお済みでない方は、お早めに準備をしていただきたいと思います。

続いて、利用者へのサポート体制についてご説明します。利用者からの問合せ窓口として、本日から専用のコールセンターを開設しました。また、対面でのサポートを希望する方向けに、各区役所に設置済み相談カウンターの開設日を2月3日から、週2回でありましたものを週5日に拡大する予定です。さらには、大型商業施設などにおいても、操作サポートのブースを設置する予定です。デジタルツールが苦手な方にもぜひご利用いただきたいと思います。

最後に、加盟店の募集についてご説明します。本キャンペーンにより、約33億円相当のさいコインと10億円相当のだまボンが市内に流通することになります。特に10億円相当のだまポンは、地元のお店に流れる仕

組みとしていますので、本キャンペーンを機に多くの事業者に加盟店登録をお願いしたいと思います。加盟店の申込は、ウェブフォームが開設されていますので、該当ページから必要な事項を記入し、申込みをしていただきたいと思います。また、加盟店登録専用の窓口として、コールセンターも開設中ですので、そちらもご利用ください。皆様の暮らしをより便利に、地域経済をより元気にするため、より多くの加盟店登録をお待ちしています。

結びに、繰り返しになりますが、2月7日から始まるキャンペーンは期間限定のさいたま市史上最大の超お得キャンペーンとなっています。アプリのダウンロードやマイナンバーカード認証など、キャンペーン参加に必要な作業がお済みでない方は、お早めに準備をしていただき、多くの皆様にふってご参加いただきたいと思います。

議題の説明は以上です。

## 市長発表：お知らせ「民間の事業者と連携し、市民のリユース活動を促進します！」

続いて、お知らせが1つだけあります。市民のリユース活動をさらに促進するために、本市では新たに民間の事業者と連携を始めました。家庭で不要品が出た際に、不要品買取店の選択や大型品の運搬においてリユースするまでのハードルが高く、不要品がリユースではなく廃棄されることを減らすために、株式会社マーケットエンタープライズと連携するものです。同社では、リユース品の一括査定サイト「おいくら」を通じて、リユース活動を促進しています。売却という形で、簡単に不要品リユースができることを市民に知ってもらうことで、「廃棄ではなく、リユースする」という選択肢が増え、多様化する不要品処分ニーズに応えることができると考えています。条件次第では、出張買取や宅内からの運び出しが可能な買取店も含まれていることもあり、大型の家具など、自分で搬出することが難しい不要品についてもリユースがしやすくなると考えています。

この官民連携によって、市民の皆様のリユース活動を促進し、粗大ごみをはじめとするごみの減量に取り組むことで、循環型社会を実現していきたいと思います。市民の皆様には、不要品を処分する際、ぜひご利用いた

だきたいと思います。

私からの説明は以上です。

**幹事社質問：新年度予算についてどのような考え方で編成に臨まれたか、市長のご見解をお願いいたします。また、すべて重要な事業とは存じますが、個別の事業でこれぞ目玉だという施策がございましたらご教示ください。**

○ 毎日新聞

ご説明ありがとうございます。

それでは、幹事社のほうから。幹事社の質問が市長のご説明と関連いたしますので、幹事社質問からさせていただきます。

ご説明にありました新年度予算についてなんですけれども、こちらどのような考え方で編成に臨まれたか、先ほどご説明ありましたが、改めてよろしくをお願いします。

もう一点、併せて予算の関係です。全て重要な事業とは存じておりますけれども、その中で個別の事業でこれぞ目玉だという施策などありましたらお願いいたします。

○ 市長

それでは、幹事社質問にお答えします。

令和7年度当初予算においては、先ほども申し上げましたが、誰もが未来に希望（ゆめ）を描けるよう、21世紀半ばを見据えたさいたま市の新時代に向けて、さらなるシンカに取り組むという観点から、新時代を切り拓くさいたま市らしさの深化、また誰一人取り残さない持続可能な地域社会の実現、激甚化する自然災害への対策の強化、またDX推進と公民学共創による質の高い市役所の創造という4つを予算の柱としました。

この中で特に重点的に取り組むものとしては、まず1つ目、誰一人取り残さない地域社会の共生の実現に向けては、様々な課題を抱えた市民を支援していくために、令和7年度から身近な地域で伴走型支援を行うコミュニティソーシャルワーカーの配置や、带状疱疹ワクチン接種に対する本市独自の（助成）制度を実施してまいります。

2つ目は、こどもまんなか社会や子育て楽しいさいたま市の実現を目指して、各ライフステージに合わせた切れ目ない支援を充実させるために、



ありましたので、過去最大になりましたが、昨年度と同様に、積極的な予算編成をしたということをご理解いただきたいと思います。

○ 埼玉新聞 さっきサーマルエネルギーセンターの話が出ましたけれども、歳出を抑えているのはその部分が大きいかと思うんですけれども、来年度以降、予算は無限ではないと思うんですけれども、なるべく歳出を抑えていくために大切なことというのはどういったことになりますか。

○ 市長 やはり私たちは、毎年のように行財政改革をやっています。予算書の中にも掲載していますが、歳入を上げるための努力と、歳出を削り、より有効な手法に変えていったり、事業の見直しを繰り返し毎年度やっていく中で、できるだけ効率的な予算配分を行って効果を上げていくことを心がけながら、毎年予算編成をしています。一時期だけでやるものではなくて、継続的に繰り返してやっていかないといけないものだと思いますので、まだ人口が増えている局面でもあるので、特にインフラ整備等については積極的な形で予算編成をしています。

○ 朝日新聞 朝日新聞です。よろしくお願ひいたします。

今の質問に関連するところではあるんですけども、今回の編成で積極的ということで今市長おっしゃいましたが、組む上でこの点は苦労したですとか、逆にここに力を入れてというか、いろいろある中でご自身として判断して進めたというような、何かそういったところを上げるとしたら何かございますでしょうか。

○ 市長 多少繰り返しになりますけれども、4つの柱をベースにしながら、私たちとしては市民生活をしっかり守ること。いろんな社会状況の変化で厳しい状況にある方々、子育て世代の皆さんの厳しさといったようなこともあります、また高齢社会を迎えた中での私たちの対応もあります。そういったことを十分に勘案しながら、もう一方で持続的な成長、発展するために、まちづくりとかインフラ整備もしっかり行っていくという観点で予算編成をしました。非常に厳しい環境の中での予算編成でありましたので、それぞれ各局などでも工夫をしていただきながらやってきました。

○ 朝日新聞 あと1点だけ。今回、そういった昨年の中期試算のときには226億円財源不足で、今回でいいますと市債の中で70億を収支不足に充てて、財調を142億取り崩したというあたりで、今一言厳しい中でおっしゃい

ましたが、なかなか財政状況が厳しいのは継続していると思うので、その辺りの中で今回の編成をしたというあたりのお考えというか、そこ辺りをちょっと聞かせていただければ。

○ 市長 繰り返しになってしまうと思いますが、これまでは運命の10年という言い方をしていましたが、今はシンカの10年という言い方をしています。本市は、2035年まで人口が増加し続け、2050年までは2020年より人口が多い状況であるという国の推計値が出ています。そういった推計などを見据えながら、私たちとしてはそれを少しでも先に、減少局面を先延ばしていく、それから高齢化、あるいは少子化のスピードといいますか、変化をできるだけ緩やかなものにしていくための施策を念頭に置いて、予算編成をしてきました。その中で、一定期間人口が増えることもあり、人口減少局面をできるだけ先送りしていくためには、投資的なところについても十分配慮しながらやっていく必要があると考えて、そのバランスを意識しながら、予算編成をしてきました。

○ 読売新聞 読売新聞と申します。

1つさっきの質問にもかぶるんですけども、財政の部分で、今回一応いろいろ要素はあったと思うんですけども、市債だったりとか、財調の取り崩しの額は昨年度よりは減っていると思うんですけども、そこら辺はどういうふうに評価をされるのかということと、あと先ほど人口が今増えている局面で、バランスを考えながらということだったんですけども、やっぱり財政というのはバランスは常に考えて今後もやらないといけないという認識でおられるのか。

○ 市長 まず、最初の質問ですが、本市の財政運営は、年度内に財源を確保して翌年度当初予算の収支不足に対応するなど、当初予算編成時点では単年度の歳入だけで歳出を賄うことができずに、多額の基金取り崩しに依存する厳しい財政状況が続いています。

最終的には、予算執行の中で様々な縮減策を図りながら、この財政調整基金の繰入れを最小限に抑えられるように取り組んでいるところです。

今後の社会経済情勢の変動の可能性、また激甚化する自然災害を含めて、非常時に備え、万全を期していくために、一定の財政調整基金を確保していくことは極めて重要であると認識しています。今回の令和6年度と令和

7年度の2か年にわたる財源調整を通じて、令和7年度当初予算編成後の財政調整基金残高を167億円確保することができたので、当面はそういった形で対応していくことになると思います。

いずれにしても、そのバランスが非常に重要だと思っています。市民生活を意識する部分と将来の投資、歳入を増やす部分と、歳出をより効果的にしていく部分をバランスよくやっていくことが重要だと思っています。やはり経済の成長と財政の健全性、それから市民満足度、こういったものをバランスよく取っていくことが私たちに求められていると思っていますし、私自身も都市を経営するという視点で、歳入を増やすこと、歳出をより効果的なものに変えていきながら、健全な財政を維持して、次への投資のための資金であったり、市民サービスの向上につながることになるので、そういった観点で今後も財政運営をしっかりとバランスよく進めていきたいと考えています。

○ 毎日新聞 代表質問、予算関係はよろしいでしょうか。

そうでしたら、その他の議題についてありましたらお願いします。

### 議題に関する質問

○日本経済新聞 まちづくりという観点で、選ばれる都市ということを清水市長掲げていらっしゃるって、その中で選ばれる都市というのも、それが子育て策なのか、それともいわゆる生活支援策なのかとか、いろいろとあると思うんですけども、その中で来年度予算の中では、やはり大宮駅、浦和駅等々の再開発等にかんがりの額を投じていらっしゃると思うんですけども、改めてまちづくり、再開発への考え方というのを伺いできますでしょうか。

○ 市長 これまでもそうですが、私たちとしてはさいたま市の強みをより強化をして、さいたま市のブランド化を図っていくことに苦心をしながらやっています。

強みって何ですかと言われたら、私は5Kと言っています。1つは交通の要衝であること、2つ目は強靱、災害に強い都市、地域であること。3つ目は教育、4つ目は環境、5つ目が健康、スポーツ、この5つがさいたま市の強みだと感じています。

選ばれる都市であり続けるためには、この5つをより選ばれるような先

進的な取組を進めていくことが重要で、それがブランド化につながっていくと思っています。

その視点と、もう一つはSDGs、誰一人取り残さないという視点を持ちながら市民生活を支えていく、こういったものの両輪で私たちとしては行政運営を行っています。

○日本経済新聞 特に大型駅の周辺の再開発というところでも、何か特に2025年で力を入れていくこととか、どういう都市になるのかというのがもしあれば教えていただけますか。

○市長 GCS構想、大宮駅のグランドセントラルステーション化構想については少し遅れておりますが、ここの道筋をしっかりとつけていく必要があると思っています。

今現在、周辺全体のコンセプトづくりなども踏まえながら、また一部計画変更の見直しなども進めながら合意形成を、前に進めていきたいと考えています。

○日本経済新聞 最後1点ちょっと、今回地域通貨のところでも9億円超の予算というのをつけていて、2024年度というのは、さいコイン等々の商圈を広げていくということにかなり力を入れていたと思うんですけども、来年度に関しまして、その拡大策を継続していくのか、それとも新たなフェーズに入るのか等々の市長のお考えをお伺いできますでしょうか。

○市長 地域通貨については、昨年7月31日からスタートして、今ちょうど半年ぐらいでしょうか、まだスタートしたばかりです。今10万人弱ぐらいのダウンロードにはなりましたが、まだまだこれを広げていく必要がありますし、私自身はこの市民アプリについてはいろんな要素があって、1つは地域経済を活性化するという目的もありますし、さいたま市がスマートシティ化、デジタル化を推進していく上での大変重要な、シンボリックな事業だと考えています。これらを通じて市の職員の仕事の効率化にもつながり、市民サービスの向上にもつながるものと考えています。そういったものをこれらもバランスよく、いろいろなポイントをつけること、今既に図書館へ行くとポイントがつくことをやっていたり、あるいは二十歳の集いのときの社会貢献活動として、フードドライブをやったときに、それを持ってきてくれた方にポイントを付与したりという取組もスタート

しています。さいたま市は、転入の方々もすごく多い地域であるので、転入された方もさいたま市のコミュニティーの中にいろいろな形で参加してもらおうための仕掛けをつくったり、それぞれの施策がより効率的、効果的になるようなものにしていくために、大変重要な役割を果たしてくれるものだと考えていますので、そういったことも含めて2025年、より多くの事業に活用してもらえようようにしていきたいと思っています。

○日本経済新聞　　そういった点では、やはりいろんな市民サービスとこの地域通貨というのをひもづけしていくということが、特に25年度は力を入れていくということですか。

○市　　長　　そうですね。

### その他：岩槻区のスクラップヤードについて

○毎日新聞　　議題については特にないですか。それ以外の質問で、ちょっと毎日から先にさせていただきます。

岩槻区のスクラップヤードのことなんですけれども、既に騒音問題改善されているというご判断かと思うんですが、住民の方からいろいろと、まだ基準値を超えているよという声が出ているのご存じかと思います。こちらについてどのように対応されるのか、市長のお考え伺えればと思います。

それともう一点、騒音を防ぐために12メートルの高い壁があります。あちらで騒音防いでいるという考え方で、それを改善したというふうに認められているということは、あの壁についても許可をされているのかという考え方を教えてください。台風などで倒れた場合に責任はどうか、事業者側にあるのか、市に責任はないのかということです。2点お願いします。

○事務局　　当該事業場につきましては、もともと周辺住民の方からの通報や相談など契機に、行政のほうで指導等を行ってきました。令和5年には、法に基づく行政処分を行った上、同年12月には行政検査により（騒音が）基準値内に収まっていることを確認し、事業者にお知らせしたところです。それ以降、市に対して周辺住民などから騒音に対する苦情、相談、申出等是一件も入っていない状態ですので、現在のところは基準値内に収まっていると市としては考えています。

また、防音壁の件ですが、事業者による騒音を防止するための措置として、事業者による取組として設置されたものです。市としては、防音壁の安全性ですとか適正な管理については、事業者の責任においてしっかりやっていたかどうかと考えています。

以上です。

- 毎日新聞 先に失礼いたしました。  
各社お願いいたします。

### その他：市長選の出馬表明について

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。  
毎回聞かれていることかと思いますが、市長選、5月の市長選についてのご自身の進退表明、表明時期、もうじき議会始まります。その辺はいかがでしょうか。
- 市長 市長選の出馬についてですけれども、現時点ではまだ自分自身では熟慮中で、まだ皆さんの前でお話ができるような状況ではないと考えています。だんだん時期が近づいてまいりますので、そう遅くはないうちにはそれなりの結論を出す必要があるとは思っていますが、まだもう少しお時間をいただければと思っています。

### その他：トルコ国籍女児の除籍について

- 埼玉新聞 先日、トルコ国籍の女児が除籍されたというニュースがありまして、学びが4か月止まってしまったということで、対応したのは市教委だと思っておりますが、市長の受け止めに聞かせてください。
- 市長 教育委員会からは、児童本人の意向を尊重し、1月30日より復学したという報告を受けました。当該児童が安心して楽しく学校に通えるよう、しっかりサポートしていってほしいと考えています。  
今回の件は、本来あってはならないことであり、国への確認が不十分なまま対応してしまったということは問題であったと考えています。教育委員会には、再発防止の徹底を図るよう伝えたところです。

## その他：浦和レッズレディースの皇后杯優勝と浦和実業高校の高校野球選抜出場決定について

○ 埼玉新聞      スポーツの話をお聞きしたいんですけども、先週、明るい話がありまして、浦和実業高校が選抜出場決まったということと、あと、浦和レッズレディースが皇后杯優勝したということで、浦和実業とレッズレディースに、今後の期待を教えてくださいませんか。

○ 市 長      まず、浦和レッズレディースについてですが、まずは浦和レッズレディースの監督、選手、そしてコーチをはじめクラブ関係者の皆様、そしてファン、サポーターの皆様にご挨拶を申し上げます。

前回の大会の決勝戦でも大変惜しい思いをしました。今回3大会ぶり、2度目の皇后杯制覇ということで、昨年の雪辱を果たしたこともあり、135万人のさいたま市民を代表して、心からお祝いを申し上げます。

この後、3月からWEリーグが再開されます。AFC女子チャンピオンズリーグのノックアウトステージも行われますので、ぜひ皇后杯優勝の勢いのままに、WEリーグの3連覇、そしてチャンピオンズリーグ初代女王を目指して、力強い熱い戦いを見せていただき、日本、そしてアジアの女子サッカー界をリードするクラブとして、市民やファン、サポーターに夢と感動を与えてほしいと思います。今、レッズレディースの黄金時代が始まってきたという感じがしています。

それから、浦和実業高校についてです。浦和実業高校の選抜高等学校野球大会の初出場、誠にありがとうございます。秋季埼玉県大会での初優勝、また名立たる強豪校がそろそろ関東大会でのベスト4の健闘からさらに成長した姿を、全国のひのき舞台でぜひ見せていただきたいと思っています。攻守にわたり高いチーム力を発揮して、春の甲子園での活躍を135万さいたま市民とともに期待したいと思います。応援していきたいと思っています。

## その他：八潮市の道路陥没事故を受けた下水道の緊急点検について

○ 時事通信      時事通信です。

八潮の道路の陥没事故の件で質問させていただきたいんですけども、

原因が下水道管の破損と見られるということで、これを受けて他の自治体で緊急点検を実施するという動きがあると思うんですけども、さいたま市さんとしては今後下水道の緊急点検を実施する考えがあるのかどうかお聞かせ願いたいです。

○ 市長 今回の件を受けて、既に点検調査を行っているところです。ちょっと詳細については担当からお話させていただきます。

○ 事務局 ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、今回は緊急点検ということで、目視点検を行っています。

まず最初に、腐食の発生しやすい環境下にある下水道管渠について、先行して現在点検を進めています。また、マンホールの蓋を開けて地上から目視による流下の状況ですとか、躯体の破損状況などを確認している状況です。

並行して、調査の対象路線について今詰めているところで、いずれにしても、早急に点検を完了させる必要があると考えていますので、対応を急ぎたいと考えています。

以上です。

○ 時事通信 まだ、ちょっと途中だと思うんですけども、これまでの点検で異常がありそうな箇所が見つかったりはされたんでしょうか。

○ 事務局 今現在のところ特に異常は発見されていません。

以上です。

## その他：インフラの老朽化対策について

○ 産経新聞 産経新聞です。

続けて八潮の陥没事故ですが、事故を受けて、インフラの老朽化ということが改めて今クローズアップされたと考えます。市長のインフラに関する認識でありますとか、あるいは下水道に限らず市内に課題等があれば、どのようなお考えを持っていらっしゃるのかお伺いさせていただきます。

○ 市長 まず、さいたま市のインフラの老朽化対策については、これまでも継続的に取り組ませていただいているところです。

まずは、今回下水道でしたけれども、例えば水道の施設については定期的に老朽管を取り替える改修工事を行っていて、詳しいパーセンテージは

今申し上げられませんが、恐らく全国でもトップクラスの老朽化への対応工事を実施していると思っています。

また、下水管についても、先ほど言った緊急のほかに、施設年度が古く、特に J R 京浜東北線周辺の中心市街地に敷設されてる下水道管約 1, 4 0 0 キロメートルを優先して、点検調査を行っているところです。点検調査としては、目視やテレビカメラによる点検を行って、不具合を確認した箇所の対策を進めているところです。

また、道路の老朽化です。路面陥没についての対策としては、路面下空洞調査計画に基づいて、緊急輸送道路を対象として 5 年に 1 回、または 1 0 年に 1 回の頻度で調査を実施しています。調査対象路線は 3 9 8 キロメートル、一次調査として空洞探査車を用いて対象路線を走行探査して、路面下の空洞の可能性のある異常箇所を抽出するというやり方をしています。

また、二次調査としてはハンディ型のレーダーを用いて異常箇所を確認した後、コアカッターを用いて穴を空けて、カメラを用いて空洞の有無や規模等を確認しています。空洞が確認された箇所については、下水等占用企業者に情報を提供して、埋設管の損傷の有無を確認するとともに、空洞を埋める対策を取っているところです。引き続き、情報の共有を図りながら、今後下水等の占用企業者と連携して対応していく予定です。

また、橋などの老朽化などについても、定期的に検査を実施しながら、適宜改修なども行っているところです。

以上です。

## その他：転入超過数について

○ 朝日新聞

朝日新聞です。

今日、多分総務省で発表になっていると思うんですが、転入というか、転入超過数ですか、いつも市長もおっしゃっていますゼロ歳から 1 4 歳のというので、今年ちょっと総務省の資料を見たところ、ちょっとよく分からなかったんですが、さいたま市の状況は今回はどうだったんでしょうか。

○ 市長

本市の状況としては全世代の転入超過数は 7, 1 5 9 人、そしてゼロ歳から 1 4 歳の転入超過数は 8 5 9 人で、全世代の転入超過数については(前

年比) マイナス472人です。そして、ゼロ歳から14歳の転入超過数は(前年比) マイナス129人です。

今朝公表されたばかりで、市区町村の詳細はまだ確認はできていません。指定都市だけが把握できる状況ですので、その中で見ますと、全年齢で見ると今6番目、ゼロ歳から14歳で見ると10年連続(1位)とはいかず、2位ということです。1位は、札幌が947人というのは確認しています。

これまで子育て世代を中心に、多くの方から選ばれる都市となるように、認可保育所、子育て支援型幼稚園など、多様な子育て支援環境を充実したり、英語教育の充実を図ったりしてきたところですが、残念ながら1位ではありませんでしたけれども、引き続き市外の子育ての世帯の方々から一定の評価をいただいていると認識をしているところです。

- 毎日新聞      ありがとうございました。
- 進    行      それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催ですが、3月11日火曜日午後1時30分からを予定しております。本日はありがとうございました。

午後 2時45分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については( )とし、下線を付しています。